



2025 年 11 月 7 日

各 位

会 社 名 東京汽船株式会社

代表者名 代表取締役 社長執行役員 齊藤 宏之

(コード番号: 9193 東証スタンダード市場)

問合せ先 取締役 専務執行役員 佐藤 晃司

(TEL 045-671-7713)

2026 年 3 月期 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2025 年 5 月 15 日に公表しました第 2 四半期（中間期）業績予想及び 2025 年 10 月 1 日に公表しました通期業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想数値の修正（2025 年 4 月 1 日～2025 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前回発表予想 (A)	百万円 6,630	百万円 94	百万円 199	百万円 359	円 銭 36.12
今回修正予想 (B)	6,812	37	184	31	3.16
増減額 (B - A)	181	△56	△15	△327	—
増減率 (%)	2.7%	△60.0%	△7.6%	△91.2%	—
(ご参考) 前期実績 (2025 年 3 月期第 2 四半期)	5,976	△134	△28	223	22.44

2026 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 12,672	百万円 103	百万円 305	百万円 5,428	円 銭 545.54
今回修正予想 (B)	13,093	13	275	5,544	557.13
増減額 (B - A)	420	△89	△30	116	—
増減率 (%)	3.3%	△86.9%	△10.1%	2.2%	—
(ご参考) 前期実績 (2025 年 3 月期)	12,041	△511	△259	2,044	205.46

2. 修正の理由

2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想につきましては、曳船事業において作業対象船舶の東京湾への入出港数は、米国の自動車関税の影響で自動車専用船は大幅な減少を予想しておりましたが、ほぼ前年同期並みで推移し、タンカーや大型客船の増加で売上高は予想を上回りました。

一方、海事関連事業においては、洋上風力発電交通船（CTV）の稼働増加に伴い売上高は増加したものの、用船料や支払手数料が増加し、人件費や減価償却費など固定費が増加する見込みです。

この結果、営業利益は当初予想から 56 百万円下回り 37 百万円となる見込みです。

また、旅客船事業では、燃料油の備蓄タンクからの漏油があり、調査の結果土壌汚染が判明し、その対策費用として環境対策引当金繰入額を 265 百万円計上することとなりました。

この結果、親会社株主に帰属する中間純利益は、2025 年 5 月 15 日に公表した時点から大幅に悪化して 31 百万円となる見込みです。

2026 年 3 月期通期連結業績予想につきましては、曳船事業において米国の自動車関税の影響が想定以下に留まると予想し、東京地区での中小型コンテナ船の増加傾向は下半期も同水準で推移することが見込まれます。

また、海事関連事業においては、洋上風力発電交通船（CTV）の北九州ひびき灘での建設向け作業の延長で、売上高は増加が見込まれますが、営業費用のうち減価償却費、支払手数料、特別修繕引当金繰入額の増加が予想されます。

この結果、売上高は 13,093 百万円と 420 百万円増加が予想されますが、営業利益は 13 百万円と、2025 年 10 月 1 日に公表した時点から 89 百万円悪化する見込みで、経常利益は 275 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は 5,544 百万円となる見込みです。

（注）上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上